

# やさしさだより

平成31年1月15日  
尼崎市立 浜小学校  
人権教育部 第9号

明けまして おめでとうございます。

本年もどうぞよろしく願いいたします。

新しい年となりました。子どもたちも新年を迎え、気持ちを新たに頑張ろうという思いを持ったことでしょう。

さて、昨年12月の人権週間に持ち帰らせました「ほほえみ」を読まれてのご意見、ご感想をたくさん頂戴いたしました。その一部を紹介させていただきます。

## 【 1年 】 「ぼくって たからもの」

○まさおくんのお母さんと同じようなことを言ってしまったり、声をあげてしまうこともあったりして、もっと私も気持ちにゆとりを持って過ごしたいと思いました。改めて子どもとの関わりを考える時間がもてました。

○子ども達のことを「宝物」と思っているけど、それがちゃんと伝わっているかな…？と思いました。大きくなると、手をつないだり、抱きしめたりすることは少なくなっていくけど、言葉ではしっかりと伝えていけたらいいし、そうしたいと思いました。

○一緒に読んで、自分もたからものか、と聞かれ、本と同じように抱きしめてあげました。とても嬉しそうで、それを見ると私もうれしくなりました。子どものためなら、何でも頑張れます。

○普段の生活で「早くしなさい。まだできていないの。」は毎日言っていますが、子どものことを「たからもの」と思っているけど、言った記憶があまりないなあと思い、子どもにどう伝わっているのかなあと考えました。伝え方は色々あると思いますが、子どもが自分は大切にされているという安心感を持って自分を大切に、そして、周りの人も大切にすることができればいいなあ、と思いました。

## 【 2年 】 「大きく なったら」

○プロ野球選手になりたいと、うれしそうに答えてくれました。よくある質問ですが、未来を子どもと一緒に描ける環境にあること、子どもが夢に向かって目を輝かせていること、こんなにありがたい幸せな日常を過ごせているのだなど、改めて思いました。

○警察官になりたいと、言いました。悪い人をつかまえたい。と言い、幼稚園の時から夢が変わっていないことに少し嬉しく思いました。この本を読んで、子どもの夢は大きくて、純粋な気持ちで素敵だと思いました。夢について子どもと話せました。

○迷わず「芸能人」と答えました。(中略) 1年前に比べて、自分の好きなことをちゃんと把握し、なれるかどうかは別として、やりたい夢が出てきたことは少しずつ成長しているのだなあ実感できました。

○子どもと将来の夢についてゆっくり話をすることができました。子どもは子どもなりに、将来のことを考えているのだな、と感じました。

○今回はダンサーでした。ケーキやさん、モデル、花屋さん…。成長と共に変わります。子どもにはまだまだ無限の可能性があります。より多くの選択肢の中から選べるように知識と経験を積んでいってほしいなと思いました。その手助けができればいいなと思います。

## 【 3年 】 「おいっ、わたしの口」

○(前略) 失敗した時は、その分、良くなるように頑張ろうと話します。言いたいことを言うのも大事で、我慢も大事で、「ごめん」も大事。悪いことのように大事なことばかりだと感じ、話しました。

○「謝る勇氣」と「許す勇氣」が人を成長させると、昔、社会人になり立ての新人研修で話を聞いたことを思い出し、改めて子どもに話すと共に、自分にも肝に銘じました。

○「ごめんね。」と言えない自分にお友だちが先に言ってくれたらうれしいと、子どもが言っているのを聞いて、簡単な言葉のようで、勇氣がいる言葉だと改めて感じました。素直に「ごめんね。」と言えるように育ってほしいです。

○大人でもなかなか「ごめんね」と伝えるのはむずかしくなっていますが、家では、私も子ども達に対して、些細なことでもやってくれたら、「ありがとう」や、怒りすぎた時には「ごめんね」と大人も子どもも関係なく言えるように心がけています。

## 【 4年 】 「やくそく げんまん」

○一番初めて出てきた言葉は、“いじめ”でした。(中略)ただ、このお母さんのように手を止めて、わが子の本当の気持ちを聞いてあげられる、母でいたい。

○(前略)自分の考えや気持ちを大切にしながら、友だちや周りの人を思いやる人になってほしいと思っています。迷ったときは、一緒に考えて、一緒に成長したいと改めて思いました。

○4年生になってから、お友だちと関わる時間が増え、その中で困っているときに助けてもらったり、やさしい言葉をかけてもらったりする話を子どもから聞く度に、人と人とのつながりの大切さを感じています。自分の子どもにもお友だちを大切に思う気持ちや優しい気持ちを学んでほしいと思います。また、いろいろな体験を通して教えていきたいと思います。

○(前略)この先、こういう場面、ありそうだなあ。そういうときに判断できるのだろうか、少し不安になりました。今の世の中、小学生や中学生から携帯を持つ子が多く、LINEのグループとかも、この本で出てくる状況と似たようなことが起こるのではないかと不安に思います。

## 【 5年 】 「わたしを伝える」

○大人でもなかなか難しいことだと思います。相手の気持ちばかり気にしていたら、自分の思いはいつも我慢しないといけないし…。でも、どちらも少しずつ歩み寄れるといいのかな、優しい気持ちを持ちながら…。学校生活を通しながら、少しずつ学んでほしいです。

○人の意見に耳を傾け、協調し合うことも大切ですが、はっきりと自分の意見を伝えなければならないときもあります。どんな時でも相手の気持ちを考え、自分の意見を主張することが大切なのだと思います。人それぞれ考え方やとらえ方も違うので、自分の気持ちを快く相手に伝えることは難しいことだと実感しています。

○子どもには、コミュニケーション力は大切と、よく言っていますが、なかなか難しいことです。すぐに身につくものでもないですし、大人になってもできないことも多いです。でも、言わなければ相手には伝わらない。失敗や経験を通して伝える力を身につけてほしいと思っています。

○自分の気持ちを正直に相手に伝えることは、時には相手の共感をよんで仲良くなったり、時には相手を傷つけてけんかになったりしてしまいます。気持ちを伝えることは、簡単なようで実はかなり難しい事だと、大人になった今でも思います。子どもには、これからも親に正直に気持ちを伝えてほしいですし、気持ちを伝え合える仲間や友だちを作ってほしいと願っています。

## 【 6年 】 「命のビザ」

○（前略）人間として、正しい選択ができることが、どれだけ大変なことか、自分の正しいと信じる行いをする意志の強さ、優しさ、本当に日本人の誇りだと思えます。将来、大きな決断を迫られたときにこのお話を思い出してみたいと思いました。

○お父さんが、自分が死刑になる覚悟で大勢のユダヤ人を助けたことに子どもも感銘を受けていました。複雑な気持ちの中、正義感を優先し、勇気ある行動にでたことは、なかなかできることではありません。人として、正しい道を歩く勇気を子どもと共感しました。

○戦争は、私もそうですが、子どもにとって昔のこと、本の中のことになっています。実際にその時代に生きていたら、自分の危険を顧みず、他人のことを助けることができるだろうか？なかなかできることではありません。その人のおかげで多くの人の命を助け、感謝され、すばらしい行動力、勇気だと思いました。

○自分の保身だけを考える現代人とは違い、勇気のある行動をする選択をしたスギハラさん。それを支えた家族によって助けられた、たくさんの命。人のために、自分を犠牲にすることは簡単なことでは無いけれども、小さな事から周りに手をさしのべられる大人になって欲しいと、話しました。

<たくさんのご協力をいただきました。ありがとうございました。>